

菊川市設計変更ガイドライン (土木工事編)

令和3年1月

菊川市

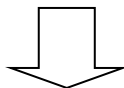
目 次

1	策定の背景	1
2	用語の定義	3
3	設計変更が適切に実施されるためには	4
4	設計変更の手続き（全般）	5
5	設計変更の手続き（約款第 18 条関係）	6
6	設計変更が不可能なケース	7
7	設計変更が可能なケース	8
8	設計変更に関わる資料の作成	17
9	関連事項	19
10	条件明示について	21
11	設計図書の照査について	26
12	その他	28

1 策定の背景

(1) 土木請負工事の特徴

土木工事は、個別に設計された極めて多岐にわたる目的物が、多種多様な自然条件・環境条件の下で生産されるという特殊性を有している。



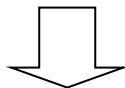
当初積算時に予見できない事態、例えば土質・地下水位等の変化に備え、その**前提条件を明示することにより、設計変更の円滑化を図る必要がある。**

※本ガイドラインにおける「土木工事」には、「農林土木工事」を含む。

(2) 発注者・受注者の留意事項

発注者は

設計積算に当たって、平成29年3月28日付け建技第431号「建設工事における施工条件明示について（通知）」【静岡県交通基盤部】に記載されている工事内容に係る項目については、「10 条件明示」を参考に条件明示するよう努めること。



受注者は

工事の着手に当たって設計図書を照査し、着手時点における疑義を明らかにするとともに、施工中に疑義が生じた場合には、**発注者と「協議」し進めることが重要**である。

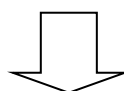
(3) 適切な設計変更の必要性

改正品確法の基本理念に「**請負契約の当事者の対等な立場における合意に基づいて公正な契約を適正な額の請負代金で締結**」が示されているとともに、「設計図書に適切に施工条件を明示するとともに、必要があると認められたときは適切に設計図書の変更及びこれに伴い必要となる請負代金又は工期の変更を行うこと」が規定されている。

また、変更見込金額が請負代金額の30%を超える場合については、**現に施工中の工事と分離して施工することが著しく困難なものに限り**、適切に設計図書の変更及びこれに伴い必要となる請負代金額又は工期の変更を行うこととする。この場合において、特に、指示等で実施が決定し、施工が進められているにもかかわらず、変更見込金額が請負代金額の30%を超えたことのみをもって設計変更に応じない、若しくは、設計変更に伴って必要と認められる請負代金の額や工期の変更を行わないことはあってはならない。

(4) ガイドライン策定の目的

設計変更に係る業務の円滑化を図るためには、発注者と受注者がともに、**設計変更が可能なケース・不可能なケース、手続きの流れ等について、十分理解しておく必要がある。**



**「菊川市設計変更ガイドライン（土木工事編）」
の策定**

2 用語の定義

用語の定義

本ガイドラインで使用する用語は、以下のとおりである。

(1) 設計図書

設計図書とは、仕様書、設計書、図面、現場説明書及び現場説明に対する質問回答書をいう。なお、契約書及び設計図書が「契約図書」である。（菊川市建設工事請負契約約款（以下、「約款」という。）第1条、土木工事共通仕様書 静岡県交通基盤部監修（以下、「土木工事共通仕様書」という。）、農林土木工事共通仕様書 静岡県交通基盤部監修（以下、「農林土木工事共通仕様書」という。））

(2) 設計変更

設計変更とは、約款に基づき、現設計（設計図書）を変更又は訂正することで、契約変更の手続きの前に当該変更の内容を、あらかじめ受注者に指示することを含む。

(3) 書面

書面とは、手書き、印刷等の伝達物をいい、発行年月日が記載され、署名又は捺印された文書をいう。（土木工事共通仕様書、農林土木工事共通仕様書）

(4) 通知

通知とは、発注者又は監督員と受注者又は現場代理人の間で、監督員が受注者に対し、又は受注者が監督員に対し、工事の施工に関する事項について、書面をもって知らせることをいう。（土木工事共通仕様書、農林土木工事共通仕様書）

(5) 承諾

承諾とは、契約図書で明示した事項について、発注者若しくは監督員又は受注者が書面により同意することをいう。（土木工事共通仕様書、農林土木工事共通仕様書）

(6) 指示

指示とは、契約図書の定めに基づき、監督員が受注者に対し、工事の施工上必要な事項について書面をもって示し、実施させることをいう。（土木工事共通仕様書、農林土木工事共通仕様書）

なお、土木工事共通仕様書1-1-6及び農林土木工事共通仕様書1-1-8により口頭による指示等が行われた場合には、後日書面により監督員と受注者が指示内容等を確認することと規定されている。

(7) 協議

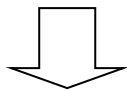
協議とは、書面により契約図書の協議事項について、発注者又は監督員と受注者が対等の立場で合議し、結論を得ることをいう。（土木工事共通仕様書、農林土木工事共通仕様書）

3 設計変更が適切に実施されるためには

設計変更が適切に実施されるためには

(発注者)

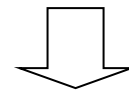
工事発注段階では、**条件明示を徹底**する。
施工段階では、指示・協議は**書面にて約
款第18条第3項**により、調査の終了後**14
日以内に回答**する。



- ・積算前の現地調査
- ・「施工条件明示事項」の活用
- ・ワンデーレスポンスの活用
- ・一時中止の適正な運用
- ・コンサルタント等を含む協議開催要請

(受注者)

工事着手に当たって設計図書を照査し、
疑義が生じた場合は、速やかに**約款第18
条第1項**により監督員に**確認を請求し、書
面にて回答を得てから**施工を行う。施工
途中も同様。

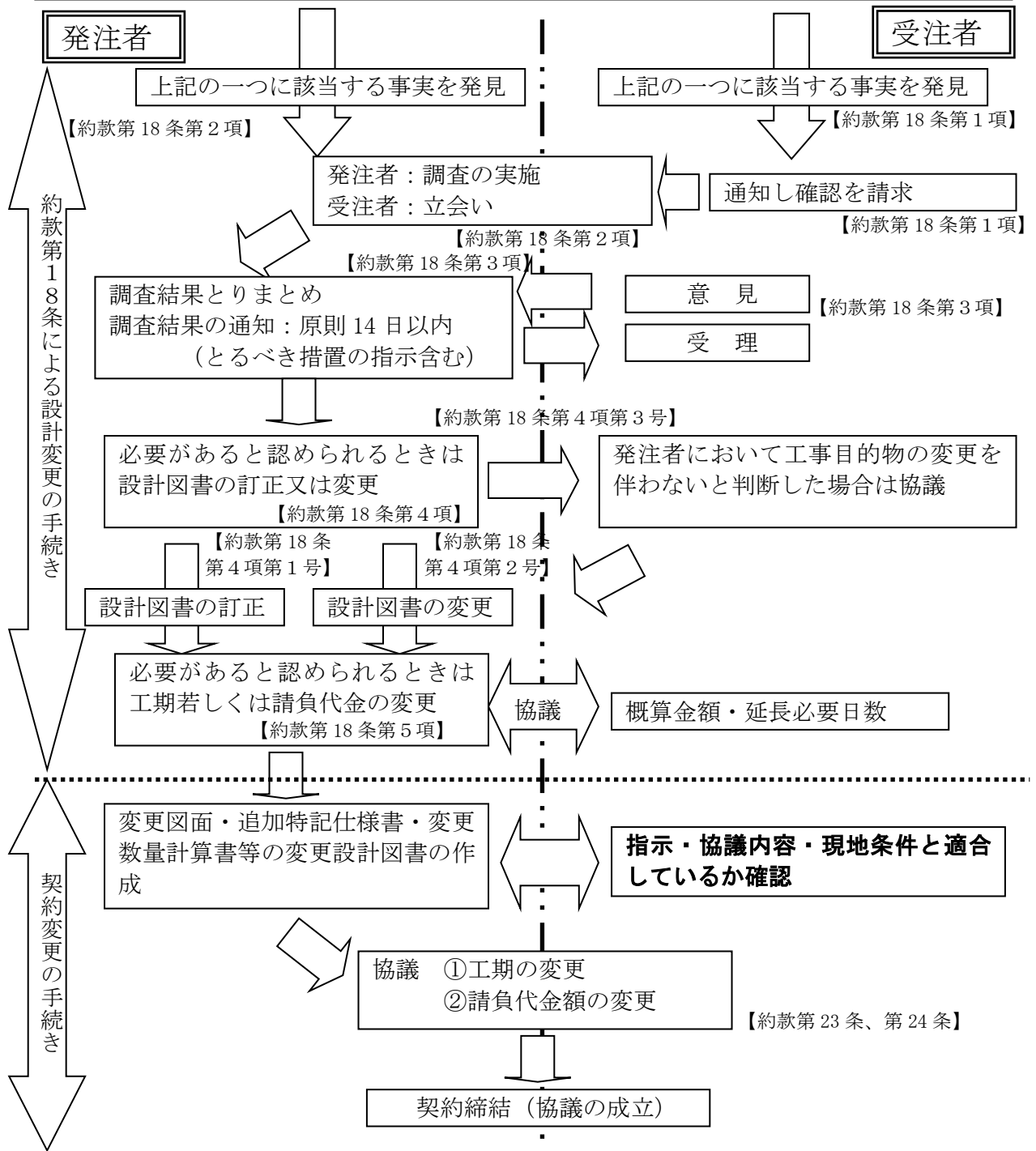


- ・設計図書の照査要領の活用
- ・工程を考慮した設計照査段階での
確認の請求
- ・コンサルタント等を含む協議開催要請

※ワンデーレスポンスとは、現場の問題発生に対する迅速な対応を実現するものである。

5 設計変更の手続き（約款第18条関係）

- ① 仕様書、設計書、図面、現場説明書及び現場説明に対する質問回答書が一致しないこと。
 - ② 設計図書に誤り、漏れがあること。
 - ③ 設計図書の表示が明確でないこと。
 - ④ 工事現場の形状、地質、湧水等の状態、施工上の制約等設計図書に示された自然的又は人為的な施工条件と実際の工事現場が一致しないこと。
 - ⑤ 設計図書で明示されていない施工条件について、予期することのできない特別な状態が生じたこと。
- 【第18条第1項】



6 設計変更が不可能なケース

【基本事項】

下記のような場合は、原則として設計変更ができない。(ただし、約款第 26 条(臨機の措置)での対応の場合はこの限りではない。)

- 1 契約図書に条件明示のない事項において、**発注者との「協議」を行わず受注者が独自に判断して施工**した場合
対応例) 受注者は約款第 18 条第 1 項に該当する事項等発見したときは、その事実を確認できる資料を書面により監督員に提出し、確認を求める。
- 2 発注者と「協議」をしているが、**協議の回答のない時点で施工を実施**した場合
対応例) 協議の回答は、契約書により発注者が約款第 18 条第 3 項により調査の終了後 14 日以内にする事となっており、速やかな回答は発注者の責務である。しかしながら、協議内容によっては、各種検討・関係機関調整が必要など、やむを得ず受注者の意見を聴いた上で回答までの期間を延長する場合もある。そのため、受注者はその事実が判明次第、できるだけ早い段階で協議を行うことが重要である。
- 3 **「承諾」で施工**した場合
対応例) 承諾とは、受注者が、自らの都合による施工方法等について、監督員に同意を得るものである。設計図書と現場の不一致や条件明示のない事項等については、約款第 18 条による協議をすることが必要であり、安易に承諾による施工を認めることは避けるべきである。
- 4 工事請負契約書及び土木工事共通仕様書に定められている**所定の手続きを経ていない場合**(約款第 18 条～第 24 条、共通仕様書 1-1-13～1-1-15)
対応例) 発注者及び受注者は、協議指示・一時中止・工期延期・請負代金の変更など、所定の手続きを行う。
- 5 **正式な(指示・協議等)書面によらない事項**(口頭のみ)の指示・協議等の場合
対応例) 発注者は、速やかに書面による指示・協議等を行う。受注者は、書面による指示・協議等の回答を得るまで施工しない。
- 6 総合評価落札方式により契約された業務において、**技術提案により追加作業が生じた場合**
対応例) 総合評価落札方式における技術提案は、契約の前提として示され評価されたものであるため、受注者の責により必ず施工されるべきものである。このため、提案内容を反映させるための設計変更は行わない。(ただし、技術提案に係る施工の範囲内において、設計図書等に示す条件が実際と一致しないなど、受注者の責に帰することができない要件が発生した場合を除く。)

7 設計変更が可能なケース

【基本事項】

下記のような場合においては、設計変更が可能である。

- 1 条件明示の有無にかかわらず、**当初発注時点で予期し得なかった土質条件や湧水等が現地で確認された場合**（ただし、所定の手続きが必要）
- 2 当初発注時点で想定している工事着手時期に、**受注者の責によらず、工事着手ができない場合**
- 3 **所定の手続き（「協議」等）を行い、発注者が指示したもの（「協議」の結果として、軽微なものは金額の変更を行わない場合がある）**
- 4 受注者が行うべき「**設計図書の照査**」の範囲を超える作業を実施する場合
- 5 受注者の責によらない工期の延期、短縮を行う場合で、協議により必要があると認められるとき

【留意事項】

設計変更に当たっては、下記の事項に留意し受注者へ指示する。

- 1 当初設計の考え方や設計条件を再確認した上で設計変更「協議」に当たる。
- 2 当該事業（工事）での変更の必要性を明確にし、設計変更は約款第 19 条に基づき書面で行う。
- 3 設計変更は、その必要が生じた都度、指示書により行う。ただし、当該設計変更の内容を着手前までに変更契約できる場合は、指示書を必要としない。
- 4 発注者は、**指示内容が予算の範囲内の業務であることを確認の上、指示書へ業務内容を記載するとともに、延長日数、概算金額を記載する**。ただし、概算金額の記載に当たっては、以下の事項を条件とする。
 - ① 受注者からの協議による変更の場合、受注者は、協議書を提出する。積算基準に定めのない工種の場合は、必要に応じ見積書を添付する。発注者は、協議書の内容で施工を指示する場合は、指示書を発出することのほか、協議書の「承諾」をもって指示書に代えることもできるが、この場合においても、発注者は、**協議書に設計変更の対象の適否、延長日数及び概算金額について記載し、受発注者間での合意を得ることとする**。
 - ② 受注者からの協議によらず発注者の指示による場合、発注者は、指示書に**業務内容、延長日数及び概算金額を指示書に記載**する。緊急を要する指示等のため、概算金額が記載できない場合は、概算金額の協議時期を記載することとする。
 - ③ 記載する延長日数及び概算金額は「参考値」であり、変更契約の工期及び変更契約額を拘束するものではない。
 - ④ 受発注者間の協議が円滑に行われるよう、発注者は、概算金額の算出条件を明確にしておく。

【指示書記載例】

指示書の記載例は、以下のとおりである。

(様式7)

指示 ・承諾 ・協議 ・提出 ・報告書			
建設工事名	令和○年度 ○○事業 ○○線○○工事	請負代金額	○, ○○○, ○○○円
建設工事箇所	菊川市 ○○ 地内	着手年月日	令和○年○月○日
下記のように指示、 承諾 、 協議 、 提出 、 報告 する。 願いたい。 令和○年○月○日		契約担当者	菊川市○○課
		監督員	○○ ○○ ^印
		請負人	
		現場代理人	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">受注者発議は第 18 条第 4 項、発注者発議は第 19 条</div>			
1 菊川市建設工事請負契約約款（第 18 条第 4 項）第 19 条により、別紙のとおり設計図書の変更を行うよう指示する。			
1) 設計変更内容：○○工 L=○mを追加する。 （詳細は、別紙に示す仕様書・図面等による。）			
2 本設計変更に係る請負金額の変更概算金額（及び延長日数）については下記のとおり協議する。			
1) 概算金額 請負金額 約○○千円増（累計で約○○千円増）			
2) 延長日数 約○○日の見込み			
なお、上記 1) 及び 2) は参考値であり、設計変更に係る金額及び工期については、約款（第 23 条及び）第 24 条により別途行う変更契約協議に基づくものとする。			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">工期の変更を伴う場合は第 23 条</div>			
上記について承諾する。受理する。 令和○年○月○日		契約担当者	
		監督員	
		請負人	株式会社○○○
		現場代理人	○○ ○○ ^印

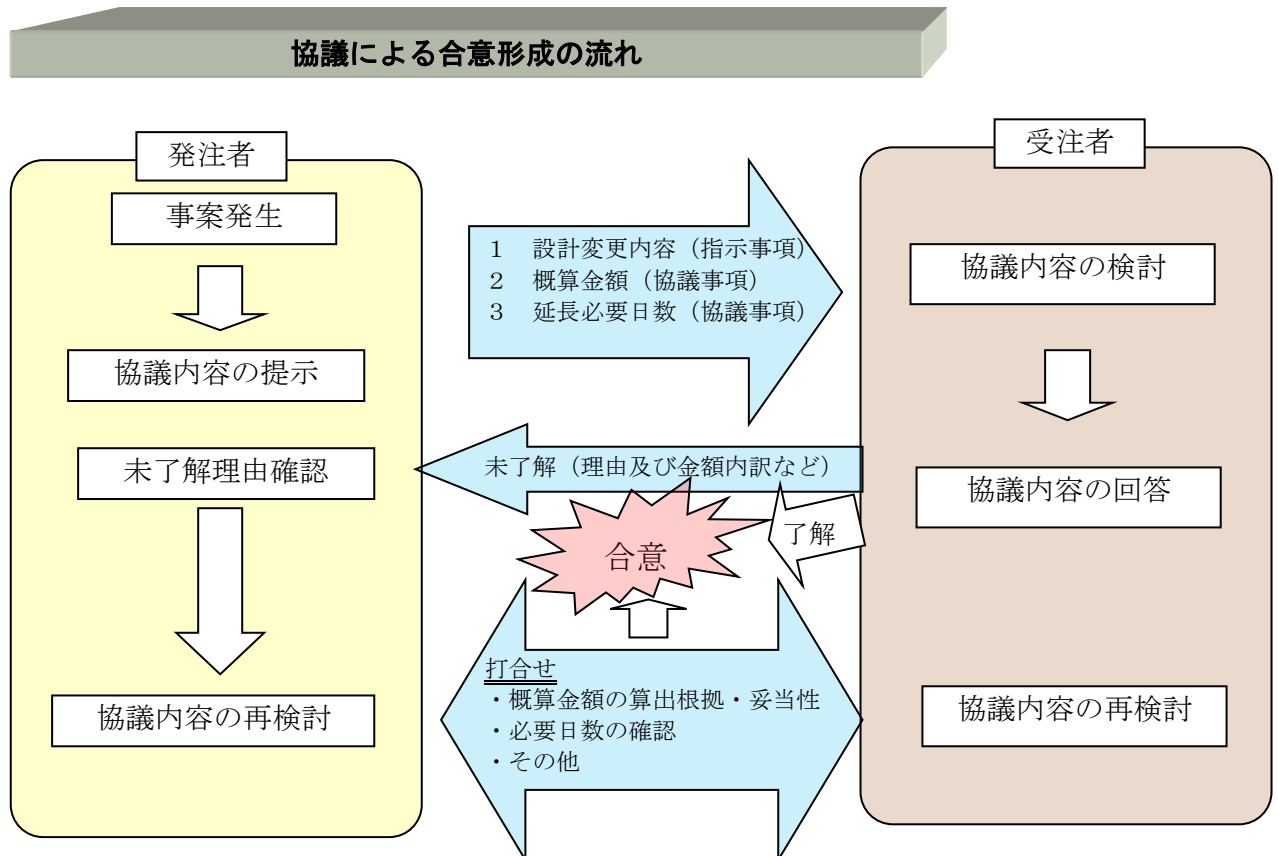
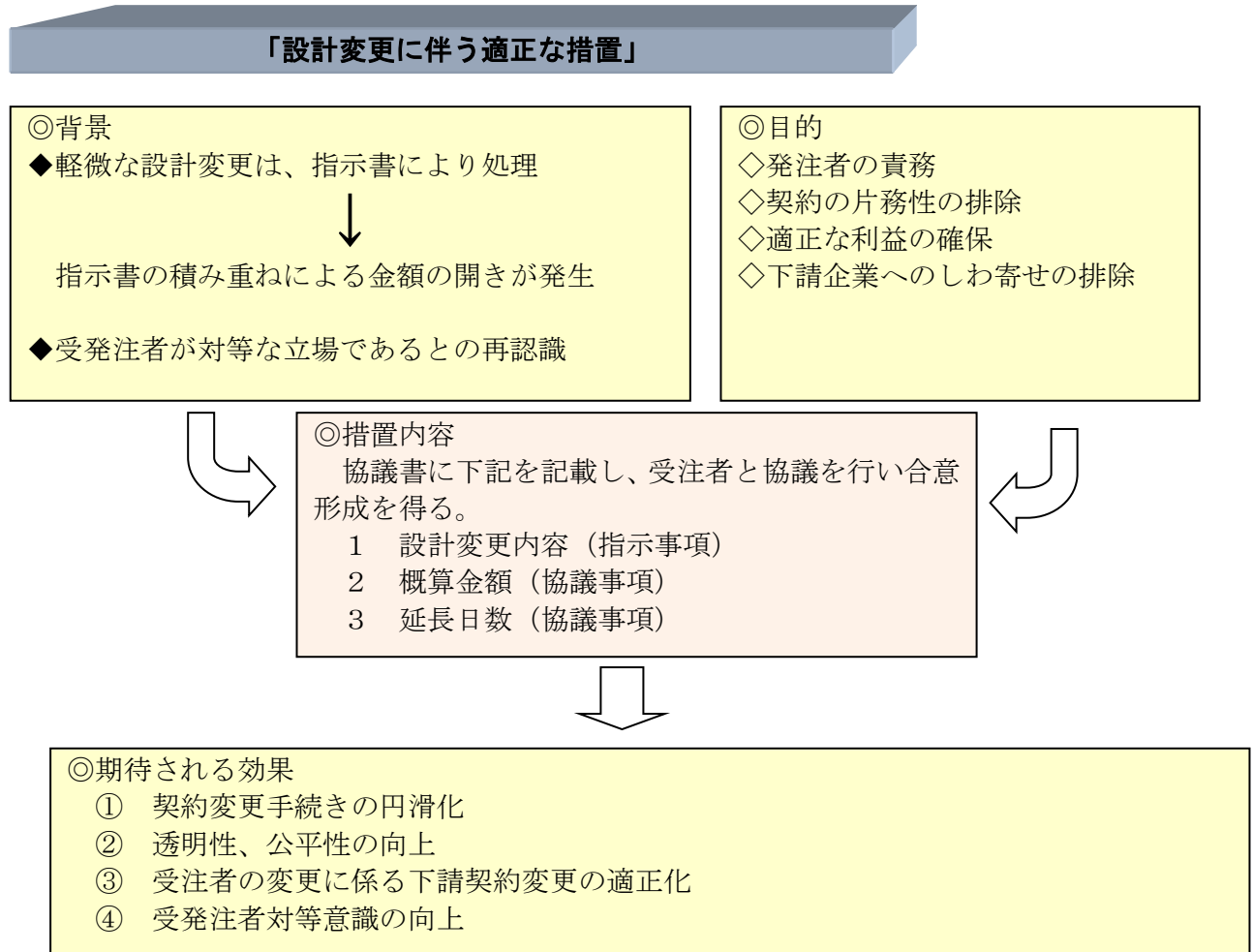
【協議書記載例】

協議書の記載例は、以下のとおりである。

(様式7)

指示・承諾・協議・提出・報告書			
建設工事名	令和〇年度 〇〇事業 〇〇線〇〇工事	請負代金額	〇, 〇〇〇, 〇〇〇円
建設工事箇所	菊川市 〇〇 地内	着手年月日	令和〇年〇月〇日
下記のように 指示、承諾、協議、提出、報告する。 願いたい。 <div style="text-align: right; padding-right: 50px;">令和〇年〇月〇日</div>		契約担当者	
		監督員	
		請 負 人	株式会社〇〇〇
		現場代理人	〇〇 〇〇⑩
<div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">受注者発議の場合は第 18 条第 4 項</div> <p>1 菊川市建設工事請負契約約款第 18 条第 4 項により、別紙のとおり設計図書の変更を行うよう協議する。</p> <p>1) 設計変更内容 (別添に示す資料等による。)</p> <p>2 本設計に係る変更概算金額 (及び延長日数) については、下記のとおり協議する。</p> <p>1) 直接工事費 約〇〇千円増</p> <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px; margin-left: 200px;">延長日数は、必要に応じて記載する。</div> <p>2) 延長日数 〇〇日</p> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 10px auto; width: 50%;">協議内容に同意し、施工を指示する場合に、監督員が記載する。</div> <p>上記 1 のとおり施工するよう指示する。 なお、本指示内容は設計変更の対象とし、概算金額及び延長必要日数は以下のとおり。</p> <p>1) 請負金額：約〇〇千円増 (累計で約〇〇千円増)</p> <p>2) 延長日数：〇〇日</p> <p>上記 1) 及び 2) は、参考値であり、設計変更に係る金額及び工期については、約款 (第 23 条及び) 第 24 条により別途行う変更契約協議に基づくものとする。</p>			
上記について承諾する。 受理する。 <div style="text-align: right; padding-right: 50px;">令和〇年〇月〇日</div>		契約担当者	菊川市〇〇課
		監 督 員	〇〇 〇〇⑩
		請 負 人	
		現場代理人	

【設計変更に伴う適正な措置】



(1) 設計図書に誤り又は漏れがある場合の手続き

(約款第 18 条第 1 項第 2 号) <設計変更可能なケース>

○受注者は、信義則上、設計図書が誤っていると思われる点を発注者に確認すべきであり、発注者は、それが誤りである場合には、設計図書を訂正する必要がある。また、受注者は、設計図書に漏れがある場合には、受注者は、自らの判断により施工を継続することなく、発注者に確認して、漏れ部分を修正の上施工すべきである。

受注者

発注者

「約款第 18 条 (条件変更等) 第 1 項第 2 号」に基づき、その旨を直ちに**監督員に通知**

「約款第 18 条第 4 項」及び「約款第 18 条第 5 項」に基づき、必要に応じ**設計図書を訂正又は変更** (当初積算の考え方に基づく条件明示)

受注者及び発注者は、第 23 条及び第 24 条に基づき「**協議**」により**工期及び請負代金額を定める**

例)

- ア 条件明示する必要があるにもかかわらず、土質に関する一切の条件明示がない場合
- イ 条件明示する必要があるにもかかわらず、地下水位に関する一切の条件明示がない場合
- ウ 条件明示する必要があるにもかかわらず、交通誘導警備員についての条件明示がない場合

(2) 設計図書の表示が明確でない場合の手続き

(約款第 18 条第 1 項第 3 号) <設計変更可能なケース>

○受注者は、設計図書の表示に不明確な点を発見した場合には、直ちに発注者に通知を行い、発注者は通知された内容を確認し、必要に応じ設計図書の訂正又は変更を行う。

受注者

発注者

「約款第 18 条 (条件変更等) 第 1 項第 3 号」に基づき、条件明示が不明確な旨を直ちに**監督員に通知**

「約款第 18 条第 4 項」及び「約款第 18 条第 5 項」に基づき、必要に応じ**設計図書の訂正又は変更** (当初積算の考え方に基づく条件明示)

受注者及び発注者は、第 23 条及び第 24 条に基づき「**協議**」により**工期及び請負代金額を定める**

例)

- ア 土質柱状図は示されているが、地下水位が不明確な場合
- イ 水替工実施の記載はあるが、作業時若しくは常時排水などの運転条件等の明示がない場合

(3) 設計図書に示された自然的又は人為的な施工条件と実際の工事現場が一致しない場合の手続き

(約款第 18 条第 1 項第 4 号) <設計変更可能なケース>

○自然的な条件とは、例えば、掘削する地山の高さ、埋め立てるべき水面の深さ等の地表面の凹凸等の形状、地質、湧水の有無又は量、地下水の水位、立木等の除去すべき物の有無が挙げられる。また、人為的な施工条件とは、地下埋設物、地下工作物、残土処理場、工事用道路、通行道路、工事に関する法令等が挙げられる。

受注者

発注者

「約款第 18 条 (条件変更等) 第 1 項第 4 号」に基づき、設計図書の条件明示 (当初積算の考え) と現地条件が一致しない旨を直ちに**監督員に通知**



調査の結果、その事実が確認された場合、**発注者は**「約款第 18 条第 4 項」及び「約款第 18 条第 5 項」に基づき、必要に応じ**設計図書の訂正又は変更**



受注者及び発注者は、第 23 条及び第 24 条に基づき「**協議**」により**工期及び請負代金額を定める**

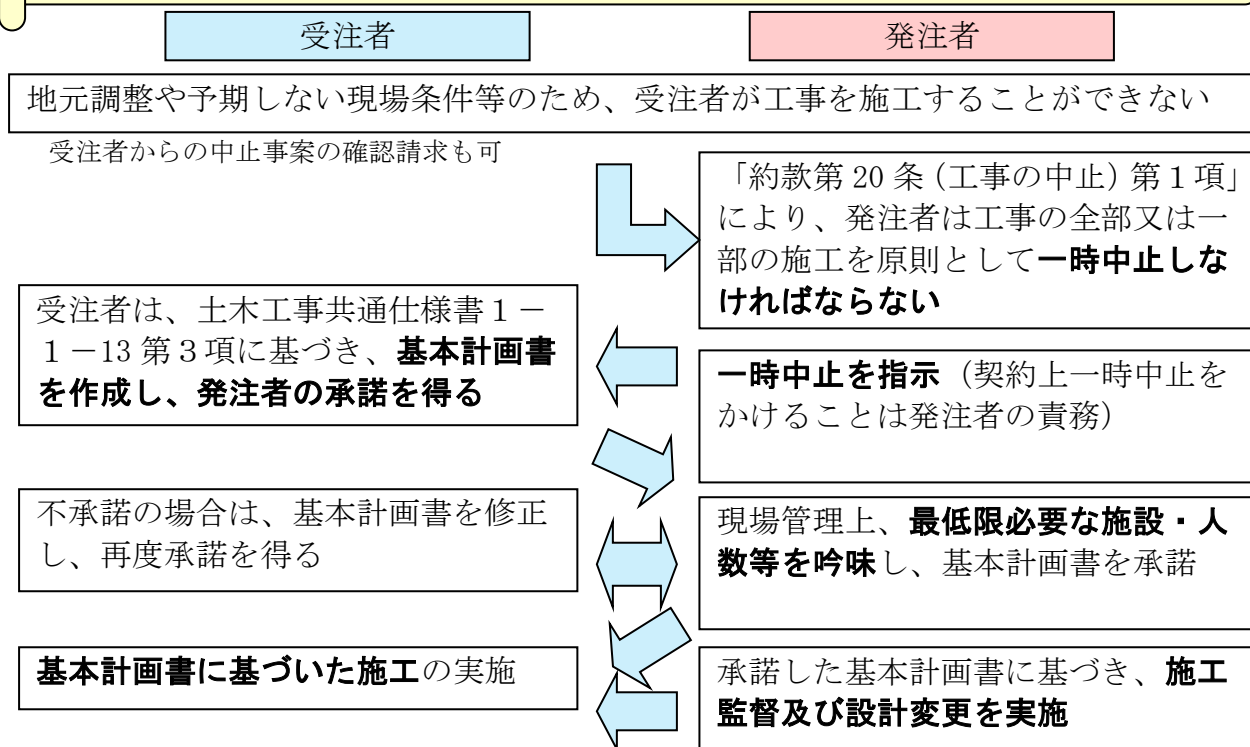
例)

- ア 設計図書に明示された土質が、現地条件と一致しない場合
- イ 設計図書に明示された地下水位が、現地条件と一致しない場合
- ウ 設計図書に明示された交通誘導警備員の人数等が、現地の規制と一致しない場合
- エ 前頁の手続きにより行った設計図書の訂正・変更で、現地条件と一致しない場合
- オ その他、新たな制約等が発生した場合

(4) 工事中止の場合の手続き

(約款第 20 条) <設計変更可能なケース>

○受注者の責に帰することができない事由により工事目的物等に損害を生じ若しくは工事現場の状態が変動したため、受注者が工事を施工できないと認められる場合の手続き（工事の一時中止等に係るガイドライン(静岡県)参照）



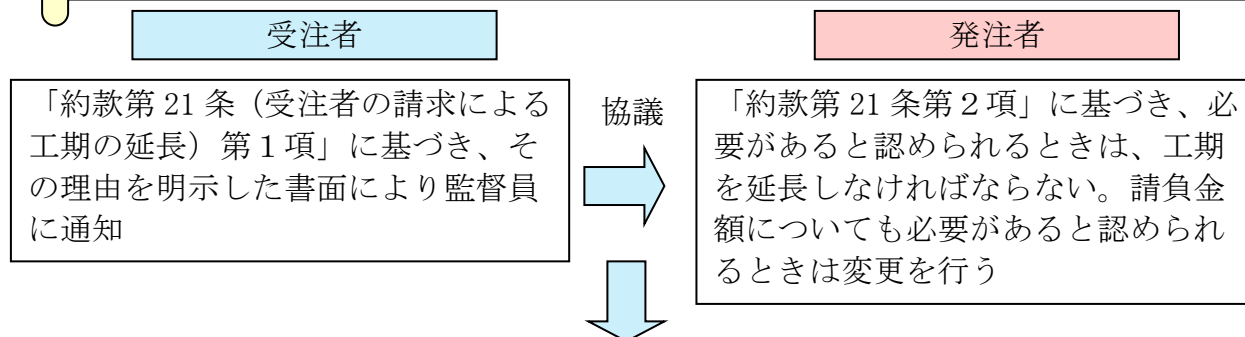
例)

- ア 設計図書に定められた工事着手時期までに、受注者の責によらず施工できない場合
- イ 警察、河川・鉄道管理者等の管理者間協議が未了の場合
- ウ 管理者間協議の結果、施工できない期間が設定された場合
- エ 受注者の責によらない何かのトラブル（地元調整等）が生じた場合
- オ 詳細設計の未了により、設計図書に定められた期日までに施工できない場合
- カ 予見できない事態が発生した（地中障害物の発見等）場合
- キ 工事用地の確保ができない等のため、工事を施工できない場合
- ク 設計図書と実際の施工条件の相違又は設計図書の不備が発見されたため、施工を続けることが困難な場合
- ケ 埋蔵文化財の発掘又は調査、その他の事由により工事を施工できない場合

(5) 受注者からの請求による工期の延長

(約款第 21 条) <設計変更可能なケース>

○受注者は、天候の不良、関連工事の調整協力、その他受注者の責めに帰すことができない事由により工期内に完成することができない場合は、その理由を明示した書面を発注者に提出し、工期延長変更を請求することができる。



受注者及び発注者は、第 23 条及び第 24 条に基づき「協議」により工期及び請負代金額を定める

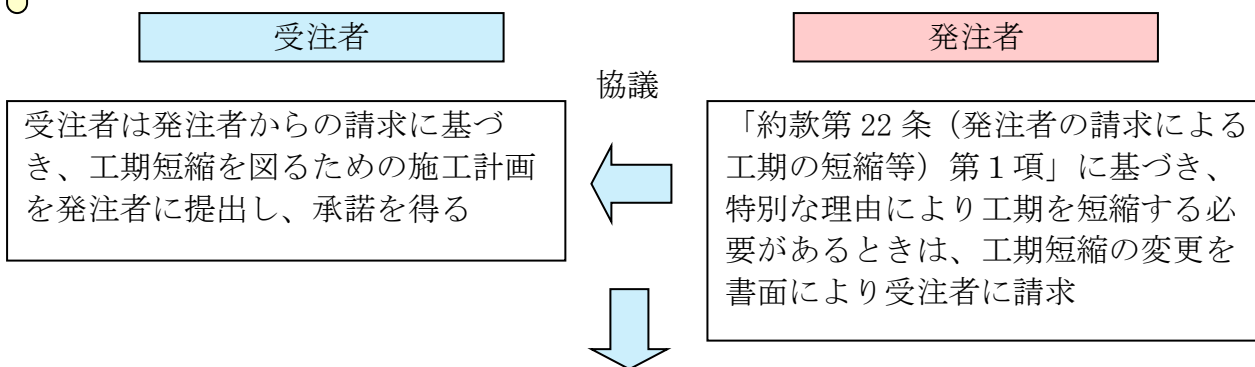
例)

- ア 天候不良の日が例年に比べ多いと判断でき、工期の延長が生じた場合
- イ 設計図書に示された関連工事との調整に変更があり、工期の延長が生じた場合
- ウ その他受注者の責めに帰すことができない事由により工期の延長が生じた場合

(6) 発注者の請求による工期の短縮

(約款第 22 条) <設計変更可能なケース>

○発注者は、特別な理由により工期を短縮する必要があるときは、工期の短縮変更を受注者に書面にて請求することができる。



受注者及び発注者は、第 23 条及び第 24 条に基づき「協議」により工期及び請負代金額を定める

例)

- ア 工事一時中止に加え、工種が追加されるなど、本来であれば工期延長が必要なところ、工期を当初契約の工期のままとする場合
- イ 関連工事等の影響により、工期短縮が必要な場合
- ウ その他の事由（地元調整、関係機関調整など）により工期の短縮が必要な場合

(7) 「設計照査の範囲」を超えるもの

＜設計変更可能なケース＞

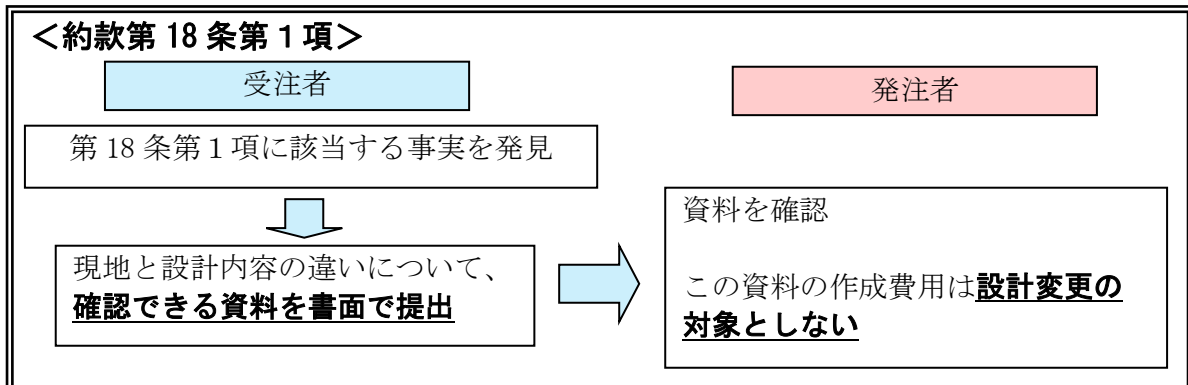
- ① 現地測量の結果、**横断図を新たに作成**する必要があるもの。又は、**縦断計画の見直しを伴う横断図の再作成**が必要となるもの。
 - ② 施工の段階で判明した**推定岩盤線の変更に伴う横断図の再作成**が必要となるもの。ただし、当初横断図の推定岩盤線の変更は「設計図書の照査」に含まれる。
 - ③ 現地測量の結果、**排水路計画を新たに作成**する必要があるもの。
 - ④ 構造物の位置や計画高さ、延長が変更となり**構造計算の再計算**が必要となるもの。
 - ⑤ 軟弱地盤における盛土の載荷高さが変更となり、**地盤の安定計算の再計算**が必要となるもの。
 - ⑥ 現地測量の結果、構造物のタイプが変更となるもの。**(標準設計で修正可能なものであっても照査の範囲を超えるものとして扱う。)**
 - ⑦ 構造物の構造計算書の計算結果が設計図と違う場合で**構造計算の再計算及び図面作成**が必要となるもの。
 - ⑧ 試験杭を施工した結果、基礎杭の杭長、杭径等が変更となり、**構造計算の再計算及び図面作成**が必要となるもの。
 - ⑨ 土留め等の構造計算で現地条件や施工条件が異なる場合の**構造計算及び図面作成**。
 - ⑩ 「設計要領」「各種示方書」等との**対比設計**
 - ⑪ **設計根拠まで遡る見直し、必要となる工費の算出。**
 - ⑫ **舗装修繕工事の縦横断設計**。(当初の設計書において縦横断面図が示されており、その修正を行う場合とする。なお、設計図書で縦横断面図が示されておらず、土木工事共通仕様書「16-5-3 路面切削工」「16-5-6 オーバーレイ工」等に該当し、縦横断設計を行うものは設計照査に含まれる。)
- (注) なお、適正な設計図書に基づく数量の算出及び完成図については、受注者の費用負担によるものとする。

8 設計変更に関わる資料の作成

設計変更に関わる資料の作成についての具体的対応方法

(1) 設計照査に必要な資料作成

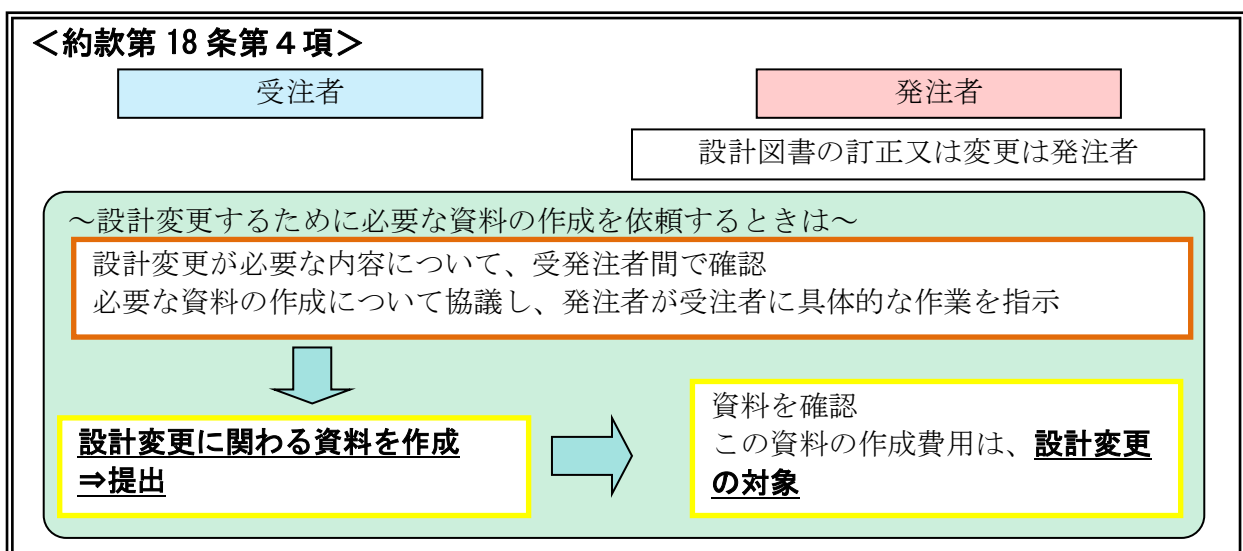
受注者は、当初設計に「約款第 18 条第 1 項」に該当する事実が発見された場合、監督員にその事実が確認できる資料を書面により提出し、確認を求めなければならない。なお、これらの資料作成に必要な費用については契約変更の対象としない。



(2) 設計変更に必要な資料作成

約款第 18 条第 1 項に基づき**設計変更するために必要な資料の作成は、約款第 18 条第 4 項に基づき発注者が行うものであるが**、積算基準に規定される「技術管理上必要な資料の作成」を行うものとして、受注者に資料の作成を依頼する場合は、以下の手続きによるものとする。なお、**出来形管理のための図面作成は受注者が行うもの**であり、この場合の図面作成に要する費用は、共通仮設費率計上分に含まれている。

- ① 設計照査に基づき設計変更が必要な場合については、受発注者間で確認する。
- ② 設計変更するために必要な資料の作成について合意を図った後、発注者が、具体的な指示を書面により行うものとする。
- ③ 発注者は、書面による指示に基づき、受注者が設計変更に関わり作成した資料を確認する。
- ④ **書面による指示に基づいた設計変更に関わる資料の作成業務については、契約変更の対象とする。**
- ⑤ 設計変更に関わる資料の作成に伴う増加費用の算定は、見積りによる。なお、人工は土木一般世話役相当とし、技術管理費の積上げで計上する。



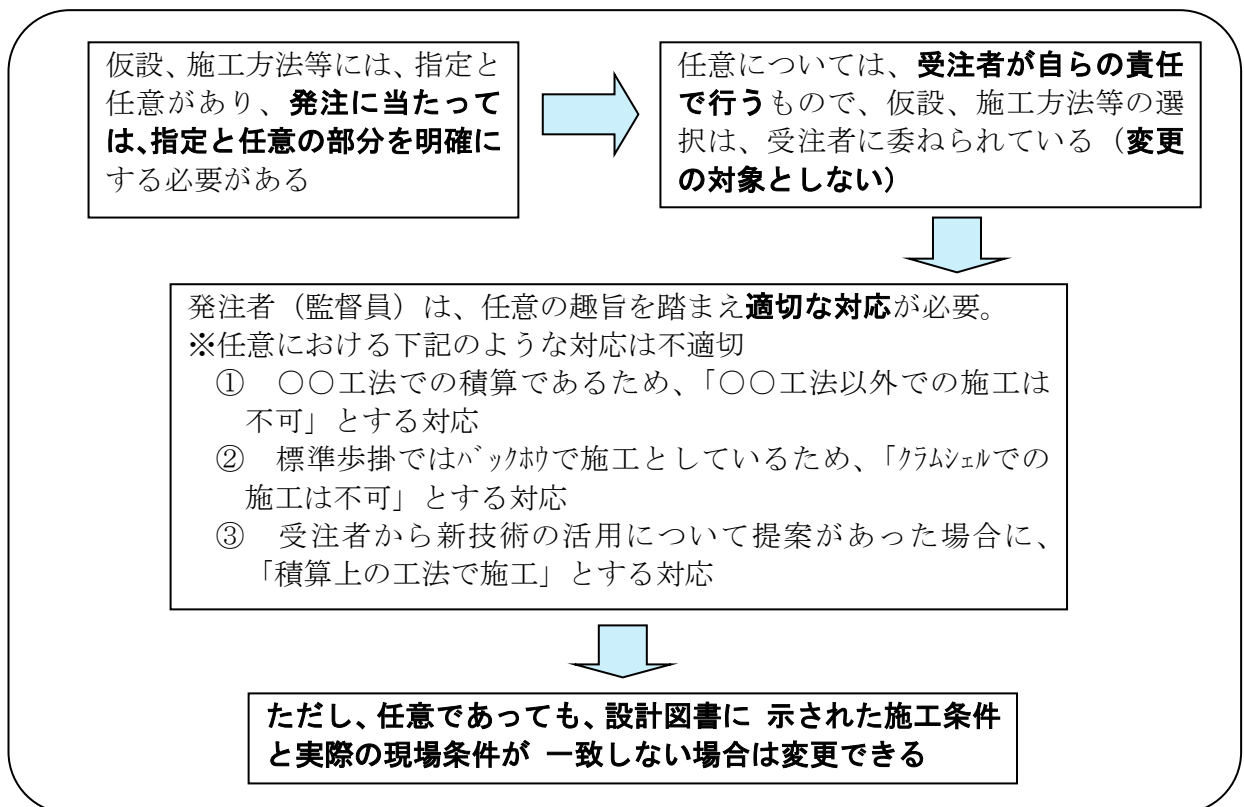
9 関連事項

◆ 指定・任意の正しい運用

仮設・施工方法等の指定・任意については、約款第1条第3項に定められているとおり、適切に扱う必要がある。

- 1 任意の仮設・施工方法については、その仮設、施工方法の一切の手段の選択は、受注者の責任で行う。
- 2 任意の仮設・施工方法については、その仮設・施工方法に変更がある場合においても、原則として設計変更の対象としない。

ただし、指定・任意とも設計図書に示された施工条件と実際の現場条件が一致しない場合は設計変更の対象とする。



◎発注者の指定事項以外は受注者の裁量の範囲

■ 自主施工の原則

約款第1条第3項により、設計図書に指定されていなければ、工事実施の手段、仮設物等は受注者の裁量の範囲

約款第1条第3項

仮設、施工方法その他工事目的物を完成するために必要な一切の手段については、この約款及び設計図書に特別の定めがある場合を除き、受注者とその責任において定める。

【指定と任意の考え方】

項目	指定	任意
設計図書	施工方法等について具体的に指定する	施工方法等について具体的には指定しない
施工方法等の変更	発注者の指示又は承諾が必要	受注者の任意（施工計画書等の修正、提出は必要）
施工方法の変更がある場合の設計変更	設計変更の対象とする	設計変更の対象としない
条件明示の変更に対応した設計変更	設計変更の対象とする	設計変更の対象とする
その他	<p><指定仮設とすべき事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川堤防と同等の機能を有する仮締切のある場合 ・仮設構造物を一般交通に供する場合 ・関係官公署との協議により制約条件のある場合 ・その他、第三者に特に配慮する必要がある場合 ・他工事等に使用するため、工事完成後も存置される必要のある仮設 	

◆ 入札・契約時の契約図書等の疑義の解決

・契約図書等に係る疑義については、下記により、入札前の段階、設計図書の照査の段階で解決しておくことが、円滑な設計変更につながることになる。

【入札前】

・入札参加者は、仕様書、設計書、図面その他契約締結に必要な条件を熟知の上、入札しなければならない。この場合において、仕様書、設計書、図面等について疑義があるときは、関係職員の説明を求めることができる。

（菊川市競争契約入札心得 第6条（入札の基本的事項））

【契約後】

・受注者は、施工前及び施工途中において、自らの負担により契約書第18条第1項第1号から第5号に係る**設計図書**の照査を行い、該当する事実がある場合は、監督員にその事実が**確認**できる資料を書面により**提出**し、**確認**を求めなければならない。なお、**確認**できる資料とは、現地地形図、設計図との対比図、取合い図、施工図等を含むものとする。また、受注者は、監督員から更に詳細な説明または資料の追加の要求があった場合は従わなければならない。

ただし、設計図書の照査範囲を超える資料の作成については、契約書第19条によるものとし、監督員からの指示によるものとする。

（土木工事共通仕様書1-1-3 設計図書の照査等）

10 条件明示について

施工条件は、契約条件となるものであることから、設計図書の中で明示するものとする。また、明示された条件に変更が生じた場合は、契約図書の関連する条項に基づき、適切に対応するものとする。（静岡県交通基盤部の施工条件明示通知を準用）

建 技 第 4 3 1 号
平成 29 年 3 月 28 日

関係部局長
部内各課長及びかい長 } 様

交通基盤部建設支援局技術管理課長

建設工事における施工条件明示について（通知）

静岡県が発注する建設工事（建築工事及び建築設備工事を除く）における施工条件明示について、下記のとおり取り扱うこととしたので通知します。
各土木事務所においては貴管内市町へ、参考送付願います。

記

1 目的

「対象工事」を施工するにあたって、制約を受ける当該工事に関する施工条件を設計図書に明示することによって、工事の円滑な執行に資することを目的とする。

2 対象工事

平成29年4月1日以降に設計積算する、静岡県発注の建設工事（建築工事及び建築設備工事を除く）とする。

3 明示項目及び明示事項（案）

別紙による

4 明示方法

施工条件は契約条件となるものであることから、設計図書（図面、設計書及び特記仕様書等）の中で明示するものとする。また、明示された条件に変更が生じた場合は、静岡県建設工事請負契約約款（以下、「約款」という。）の関連する条項に基づき、適切に対応するものとする。

5 その他

- (1) 明示されない施工条件、明示事項が不明確な施工条件についても、約款の関連する条項に基づき発注者と受注者が協議できるものであること。
- (2) 施工条件の明示は、工事内容に応じて適切に対応すること。なお、施工方法、機械施設等の仮設については、施工者の創意工夫を損なわないよう表現上留意すること。
- (3) 個人情報の取扱いに際しては、個人情報に関する法令を遵守すること。

担 当 技術管理課積算班
電 話 054-221-2131

明示項目及び明示事項（案）

明示項目	明示事項
A. 契約関係	<ol style="list-style-type: none"> 1. 最低制限価格を設定する工事の場合は、その該当の有無を明示 2. 低入札価格調査対象工事の場合は、その該当の有無を明示 3. 低入札工事において、配置する補助技術者の資格を明示
B. 工程関係	<ol style="list-style-type: none"> 1. 他の工事の開始又は完了の時期により、当該工事の施工時期、全体工期等に影響がある場合は、影響を受ける部分及び内容並びに他の工事の内容、開始又は完了の時期 2. 施工時期、施工時間及び施工方法が制限される場合は、制限される施工内容、施工時期、施工時間及び施工方法 3. 当該工事の関係機関等との協議に未成立のものがある場合は、制約を受ける内容及びその協議内容並びに成立見込み時期 4. 関係機関、自治体等との協議の結果、特定の条件が付され当該工事の工程に影響がある場合は、影響を受ける部分及び内容 5. 工事着手前に土壌汚染、地下埋設物及び埋蔵文化財等の事前調査を必要とする場合は、その項目及び調査期間。又、地下埋設物等の移設が予定されている場合は、その移設期間
C. 用地関係	<ol style="list-style-type: none"> 1. 工事用地等に未処理部分がある場合は、その場所、範囲及び処理の見込み時期 2. 工事用地等の使用終了後における復旧内容 3. 工事用仮設道路・資機材置き場用の用地を借地させる場合、その場所、範囲、時期、期間、使用条件、復旧方法等 4. 受注者に、消波ブロック、桁製作等の仮設ヤードとして官有地等及び発注者が借り上げた土地を使用させる場合は、その場所、範囲、時期、期間、使用条件、復旧方法等 5. 立木伐採を行う場合は、その場所、範囲及び処理方法
D. 環境対策関係	<ol style="list-style-type: none"> 1. 工事に伴う環境対策（騒音、振動、粉塵、排出ガス等防止）のため、施工方法、建設機械・設備、作業時間等の指定が必要な場合は、その内容 2. 工事の施工に伴って発生する騒音、振動、地盤沈下、地下水の枯渇等が予測される場合、又は、電波障害等に起因する事業損失が懸念される場合は、事前・事後等調査の区分とその調査時期、未然に防止するために必要な調査方法、範囲等 3. 濁水、湧水等の処理で特別の対策を必要とする場合は、その内容（処理施設、処理条件等） 4. 周辺住民の要望や関係官公署の指導等により、特別の環境対策を必要とする場合は、その内容
E. 安全対策関係	<ol style="list-style-type: none"> 1. 交通安全施設等を指定する場合は、その内容、期間 2. 鉄道、ガス、電気、電話、水道等の施設と近接する工事において施工方法、作業時間等に制限がある場合は、その内容 3. 落石、雪崩、土砂崩落等に対する防護施設が必要な場合は、その内容 4. 交通規制を実施する場合は、規制の内容 5. 交通誘導員、警戒船及び発破作業等の保全設備、保安要員の配置を指定する場合又は発破作業等に制限がある場合は、その内容 6. 有毒ガス及び酸素欠乏等の対策として、換気設備等が必要な場合は、その内容 7. 高所作業で落下・墜落等対策を指定する場合は、その内容

明示項目	明 示 事 項
F. 工事中道路関係	1. 一般道路を搬入、搬出路として使用する場合 (1) 工事中資機材等の搬入経路、使用期間、使用時間帯等に制限がある場合は、その経路、期間、時間帯等 (2) 搬入、搬出路の使用後及び使用後の処置が必要である場合は、その処置内容 2. 仮設道路を設置する場合 (1) 仮設道路に関する安全施設等が必要である場合は、その内容、期間 (2) 仮設道路の設置期間及び工事中終了後の処置（存置又は撤去） (3) 仮設道路の維持補修が必要である場合は、その内容
G. 仮設関係	1. 仮土留、仮橋、足場等の仮設物を他の工事に引き渡す場合及び引き継いで使用する場合は、その内容、期間、条件等 2. 仮設の構造、工法及びその施工範囲を指定する場合は、その構造、工法及び施工範囲 3. 仮設の設計条件を指定する場合は、その内容 4. 水替・流入防止施設が必要な場合は、その内容、期間
H. 建設副産物関係	1. 建設発生土が発生する場合は、その受入場所及び仮置き場所までの距離等及び処分又は保管条件 2. 建設副産物の現場内での再利用又は減量化が必要な場合は、その内容 3. 建設副産物及び建設廃棄物が発生する場合は、その処理方法、処理場所等の処理条件。なお、再資源化処理施設又は最終処分場を指定する場合は、その受入場所、距離等の処分条件
I. 工事中支障物件等	1. 地上、地下等における占有物件の有無及び占有物件等で工事中支障物が存在する場合は、協議の進捗状況、支障物件名、管理者、位置、移設時期、工事中方法、防護等 2. 地上、地下等の占有物件工事中と重複して施工する場合は、その工事中内容、期間等
J. 薬液注入関係	1. 薬液注入を行う場合は、設計条件、工法区分、材料種類、施工範囲、削孔数量、削孔延長及び注入量、注入圧等 2. 周辺環境への影響調査が必要な場合は、その内容
K. その他	1. 中間検査の対象工事中である場合は、対象となる工種、項目、時期等 2. 材料検査の対象工事中である場合は、対象となる材料、時期 3. 工事中資機材の保管及び仮置きが必要である場合は、その保管及び仮置き場所、期間、保管方法等 4. 工事中現場発生品がある場合は、その品名、数量、現場内での再使用の有無、引き渡し場所等 5. 支給材料及び貸与品がある場合は、その品名、数量、品質、規格又は性能、引渡場所、引渡期間等 6. 関係機関・自治体等との近接協議に係る条件及びその内容等 7. 架設工法を指定する場合は、その工事中方法及び工事中条件 8. 工事中用水及び工事中電力等を指定する場合は、その内容 9. 新技術・新工法・特許工法を指定する場合は、その内容 10. 部分使用を行う必要がある場合は、その箇所及び使用時期 11. 1. 予定価格1千万円以上の工事中の場合は、契約後VE提案対象工事中への該当の有無を明示 12. 共通仕様書に記載のない工事中方法を指定する場合は、その内容 13. 施工管理基準に記載のない工事中管理（出来型、品質、写真管理）を指定する場合は、その内容 14. 1. 景観に配慮し、構造物の色彩やデザイン等を指定する場合は、その内容

F 工事用道路関係	1	一般道の使用	搬入経路、使用時間、使用時間帯等に制限がある場合	制限される工事用資機材の搬入経路		
				制限される使用期間		
				制限される使用時間帯		
	2	仮道路	搬入、搬出路の使用後及び使用後の処置が必要である場合 仮設道路を設置する場合	使用中・使用後の処置内容		
				仮設道路の仕様		
安全施設等の設置期間 工事終了後の措置(存置又は撤去)						
		仮設道路の維持補修が必要である場合	内容			
G 仮設関係	1	仮設 (仮土留、仮橋、足場等)	仮設物を他の工事に引き渡す場合及び引き継いで使用する場合	仮設備の内容		
				仮設備の期間		
				仮設備の条件		
				仮設備の構造、工法及びその施工範囲を指定する場合	仮設備の構造、施工方法、施工範囲	
				仮設の設計条件を指定する場合	設計条件の内容	
		水替・流入防止施設が必要な場合	内容、期間			
H 建設副産物関係	1	建設発生土の搬出	建設発生土が発生する場合	受入場所及び仮置き場所までの距離	設計書による。	
				処分又は保管条件		
	2	建設副産物の利用	現場内での再利用又は減量化が必要な場合	現場内利用の内容		
				減量化の内容		
	3	建設副産物及び建設廃棄物の処理	建設副産物及び建設廃棄物が発生する場合 ○	処理方法、処理場所等の処理条件	建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律、資源の有効な利用の促進に関する法律、廃棄物の処理及び清掃に関する法律その他関係法令等によるほか、建設副産物適正処理推進要綱に従い適切に処理する。	
再資源化処理施設又は最終処分場を指定する場合				受入場所、距離等の処理条件		
I 工事支障物件等	1	工事支障物件協議	地上、地下等における占用物件の有無及び占用物件等で工事支障物が存在する場合	協議の進捗状況		
				支障物件名、管理者名、位置、移設時期、工事方法、防護等		
				地上、地下等の占用物件に係る工事期間と重複して施工する場合	工事内容 工事期間	
J 薬液注入関係	1	薬液注入	薬液注入を行う場合	設計条件、施工工法等		
			周辺環境に与える影響の調査が必要な場合	周辺環境調査の内容		
K その他	1	中間検査	検査員による中間検査の対象となる場合	対象工種		
				検査項目		
				時期		
	2	材料検査	監督員による材料検査の対象となる場合	対象となる材料		
				時期		
	3	工事用資機材の保管及び仮置き	工事用資機材の保管及び仮置きが必要な場合	保管及び仮置き場所、期間、保管方法等		
	4	工事現場発成品	工事現場発成品がある場合	品名・数量、現場内での再使用の有無 引渡場所		
	5	支給品及び貸与品	支給材料及び貸与品がある場合	品名・数量・品質		
				規格又は性能		
				引渡場所・引渡期間		
	6	関連機関との近接協議		近接協議に係る条件及び内容		
	7	架設工法	架設工法を指定する場合	施工方法		
				施工条件		
	8	工事用水、電力	工事用水を指定する場合	工事用水の内容		
工事電力を指定する場合			工事電力の内容			
9	新技術・新工法・特許工法	新技術・新工法・特許工法を指定する場合	工法の内容			
10	部分使用	部分使用を行う必要がある場合	部分使用箇所			
			部分使用時期			
11	契約後VE	予定価格1千万円以上の工事の場合	契約後VE提案対象工事への該当			
12	その他	共通仕様書に記載のない施工方法を指定する場合	指定内容			
13		施工管理基準に記載のない施工管理(出来型・品質・写真管理)を指定する場合	指定内容			
14		景観に配慮し、構造物の色彩やデザイン等を指定する場合	指定内容	景観配慮チェックシートによる。		

11 設計図書の照査について

◆約款、土木工事共通仕様書及び農林土木工事共通仕様書において、設計図書の照査は受注者の責務である。

約款第 18 条（条件変更等）

第 1 項

受注者は、工事の施工に当たり、次の各号のいずれかに該当する事実を発見したときは、その旨を直ちに監督員に通知し、その確認を請求しなければならない。

- (1) 仕様書、設計書、図面、現場説明書及び現場説明に対する質問回答書が一致しないこと（これらの優先順位が定められている場合を除く。）。
- (2) 設計図書に誤り又は漏れがあること。
- (3) 設計図書の表示が明確でないこと。
- (4) 工事現場の形状、地質、涌水等の状態、施工上の制約等設計図書に示された自然的又は人為的な施工条件と実際の工事現場が一致しないこと。
- (5) 設計図書で明示されていない施工条件について予期することのできない特別な状態が生じたこと。

土木工事共通仕様書、農林土木工事共通仕様書

第 1 編共通編

第 1 章総則 第 1 節総則

1-1-3 設計図書の照査等

2. 受注者は、施工前及び施工途中において、自らの負担により契約書第 18 条第 1 項第 1 号から第 5 号に係る**設計図書の照査**を行い、**該当する事実がある場合は、監督員にその事実が確認できる資料を書面により提出し、確認を求めなければならない。**なお、**確認できる資料とは、現地地形図、設計図との対比図、取合い図、施工図等を含むものとする。**また、受注者は、監督員から更に詳細な説明または資料の追加の要求があった場合は従わなければならない。

ただし、設計図書の照査範囲を超える資料の作成については、契約書第 19 条によるものとし、監督員からの指示によるものとする。

◆設計図書の照査の範囲

●共通仕様書により受注者が作成する資料の範囲

- ① 現場地形図・・・・・・・・・・実測横断図
設計図との対比図・・・・・・・・・・当初設計図への現地盤線等の作図
取合い図・・・・・・・・・・当初設計への既設構造物の追記
施工図・・・・・・・・・・実施工程上問題となる施工資料
- ② 更なる追加資料は、現地の事実が確認できない場合に限り要求できるものとする。
注1) 更なる追加資料とは、前頁「更に詳細な説明又は書面の追加」を指す。
注2) 現地事実の確認の範囲は、上記の資料に対して**新たな比較設計や構造計算が伴うものは含まれていない**。受注者の資料に対して**更なる比較設計や構造計算等の検討は、発注者の責務において実施**するものとする。

◆受注者が実施する「設計図書の照査」の項目及び内容

受注者は、約款及び共通仕様書に基づいて設計照査を行うこととなるが、具体的には「設計図書の照査ガイドライン（静岡県交通基盤部）」の照査の項目を準用し実施する。

また、その他の工種についても、準拠できるものがあれば、発注者と受注者において協議し、運用できるものとする。

◆「設計図書の照査」の範囲を超えた設計図書の訂正又は変更に必要な費用の負担は、発注者の責任において行うものとする。なお、「設計図書の照査」の範囲を超えるものとしては、以下の状況が考えられる。

- ① 現地測量の結果、**横断図を新たに作成**する必要があるもの。又は**縦断計画の見直しを伴う横断図の再作成**が必要となるもの。
- ② 施工の段階で判明した**推定岩盤線の変更に伴う横断図の再作成**が必要となるもの。ただし、当初横断図の推定岩盤線の変更は「設計図書の照査」に含まれる。
- ③ 現地測量の結果、**排水路計画を新たに作成**する必要があるもの。
- ④ 構造物の位置や計画高さ、延長が変更となり、**構造計算の再計算**が必要となるもの。
- ⑤ 軟弱地盤における盛土の載荷高さが変更となり、**地盤の安定計算の再計算**が必要となるもの。
- ⑥ 現地測量の結果、構造物のタイプが変更となるもの。（**標準設計で修正可能なものであっても照査の範囲を超えるものとして扱う。**）
- ⑦ 構造物の構造計算書の計算結果が設計図と違う場合の**構造計算の再計算及び図面作成**が必要となるもの。
- ⑧ 試験杭を施工した結果、基礎杭の杭長、杭径等が変更となり、**構造計算の再計算及び図面作成**が必要となるもの。
- ⑨ 土留め等の構造計算で現地条件や施工条件が異なる場合の**構造計算及び図面作成**。
- ⑩ 「設計要領」「各種示方書」等との**対比設計**。
- ⑪ **設計根拠まで遡る見直し、必要となる工費の算出**。
- ⑫ **舗装修繕工事の縦横断設計**。（当初設計において縦横断面図が示されており、その修正を行う場合とする。なお、設計図書で縦横断面図が示されておらず、土木工事共通仕様書「16-5-3 路面切削工」「16-5-6 オーバーレイ工」等に該当し、縦横断設計を行うものは設計照査に含まれる。）

(注) なお、適正な設計図書に基づく数量の算出及び完成図については、受注者の負担によるものとする。

12 その他

(1) 菊川市建設工事請負契約約款（抜粋）

第1条（総則）

- 3 仮設、施工方法その他工事目的物を完成するために必要な一切の手段（「施工方法等」という。以下同じ。）については、この約款及び設計図書に特別の定めがある場合を除き、受注者がその責任において定める。
- 5 この約款に定める請求、通知、報告、申出、承諾及び解除は、書面により行わなければならない。

第9条（監督員）

- 2 監督員は、この約款の他の条項に定めるもののほか、設計図書に定めるところにより、次に掲げる権限を有する。
 - (1) 契約の履行についての受注者又は受注者の現場代理人に対する指示、承諾又は協議
 - (2) 設計図書に基づく工事の施工のための詳細図等の作成及び交付又は受注者が作成した詳細図等の承諾
 - (3) 設計図書に基づく工程の管理、立会い、工事の施工状況の検査又は工事材料の試験若しくは検査（確認を含む。）
- 4 第2項の規定に基づく監督員の指示又は承諾は、原則として、書面により行わなければならない。

第18条（条件変更等）

- 受注者は、工事の施工に当たり、次の各号のいずれかに該当する事実を発見したときは、その旨を直ちに監督員に通知し、その確認を請求しなければならない。
- (1) 仕様書、設計書、図面、現場説明書及び現場説明に対する質問回答書が一致しないこと（これらの優先順位が定められている場合を除く。）。
 - (2) 設計図書に誤り又は漏れがあること。
 - (3) 設計図書の表示が明確でないこと。
 - (4) 工事現場の形状、地質、涌水等の状態、施工上の制約等設計図書に示された自然的又は人為的な施工条件と実際の工事現場が一致しないこと。
 - (5) 設計図書で明示されていない施工条件について予期することのできない特別な状態が生じたこと。
 - 2 監督員は、前項の規定による確認を請求されたとき又は自ら前項各号に掲げる事実を発見したときは、受注者の立会いの上、直ちに調査を行わなければならない。ただし、受注者が立会いに応じない場合には、受注者の立会いを得ずに行うことができる。
 - 3 発注者は、受注者の意見を聴いて、調査の結果（これに対してとるべき措置を指示する必要があるときは、当該指示を含む。）を取りまとめ、調査の終了後14日以内に、その結果を受注者に通知しなければならない。ただし、その期間内に通知できないやむを得ない理由があるときは、あらかじめ受注者の意見を聴いた上、当該期間を延長することができる。

4 前項の調査の結果において第1項の事実が確認された場合において、必要があると認められるときは、次に掲げるところにより、設計図書の訂正又は変更を行わなければならない。

(1) 第1項第1号から第3号までのいずれかに該当し、設計図書を訂正する必要があるもの 発注者が行う。

(2) 第1項第4号又は第5号に該当し、設計図書を変更する場合で工事目的物の変更を伴うもの 発注者が行う。

(3) 第1項第4号又は第5号に該当し、設計図書を変更する場合で工事目的物の変更を伴わないもの 発注者と受注者とが協議して発注者が行う。

5 前項の規定により設計図書の訂正又は変更が行われた場合において、発注者は、必要があると認められるときは工期若しくは請負代金額を変更し、又は受注者に損害を及ぼしたときは必要な費用を負担しなければならない。

第19条（設計図書の変更）

発注者は、前条第4項の規定によるほか、必要があると認めるときは、設計図書の変更内容を受注者に通知して、設計図書を変更することができる。この場合において、発注者は、必要があると認められるときは、工期若しくは請負代金額を変更し、又は受注者に損害を及ぼしたときは必要な費用を負担しなければならない。

第20条（工事の中止）

工事用地等の確保ができない等のため又は（中略）自然的又は人為的な事象（以下「天災等」という。）であって、受注者の責めに帰すことができないものにより工事目的物等に損害を生じ若しくは工事現場の状態が変動したため、受注者が工事を施工できないと認められるときは、発注者は、工事の中止内容を直ちに受注者に通知して、工事の全部又は一部の施工を一時中止させなければならない。

3 発注者は、（中略）工事の施工を一時中止させた場合において、必要があると認められるときは工期若しくは請負代金額を変更し、（中略）工事の施工の一時中止に伴う増加費用を必要とし、若しくは受注者に損害を及ぼしたときは、必要な費用を負担しなければならない。

第21条（受注者の請求による工期の延長）

受注者は、天候の不良、第2条の規定に基づく関連工事の調整への協力その他受注者の責めに帰すことができない事由により工期内に工事を完成することができないときは、その理由を明示した書面により、発注者に工期の延長変更を請求することができる。

第22条（発注者の請求による工期の短縮等）

発注者は、特別の理由により工期を短縮する必要があるときは、工期の短縮変更を受注者に請求することができる。

- 2 発注者は、この約款の他の条項の規定により工期を延長すべき場合において、特別の理由があるときは、通常必要とされる工期に満たない工期への変更を請求することができる。
- 3 発注者は、前2項の場合において、必要があると認められるときは、請負代金額を変更し、又は受注者に損害を及ぼしたときは必要な費用を負担しなければならない。

第23条（工期の変更方法）

工期の変更については、発注者と受注者とが協議して定める。ただし、協議開始の日から14日以内に協議が整わない場合には、発注者が定め、受注者に通知する。

- 2 前項の協議開始の日については、発注者が受注者の意見を聴いて定め、受注者に通知するものとする。ただし、発注者が工期の変更事由が生じた日（第21条の場合にあっては、発注者が工期変更の請求を受けた日、前条の場合にあっては、受注者が工期変更の請求を受けた日）から7日以内に協議開始の日を通知しない場合には、受注者は、協議開始の日を定め、発注者に通知することができる。

第24条（請負代金額の変更方法等）

請負代金額の変更については、発注者と受注者とが協議して定める。ただし、協議開始の日から14日以内に協議が整わない場合には、発注者が定め、受注者に通知する。

- 2 前項の協議開始の日については、発注者が受注者の意見を聴いて定め、受注者に通知するものとする。ただし、請負代金額の変更事由が生じた日から7日以内に協議開始の日を通知しない場合には、受注者は、協議開始の日を定め、発注者に通知することができる。
- 3 この約款の規定により、受注者が増加費用を必要とした場合又は損害を受けた場合に発注者が負担する必要な費用の額については、発注者と受注者とが協議して定める。

第26条（臨機の措置）

受注者は、災害防止等のため必要があると認めるときは、臨機の措置をとらなければならない。この場合において、必要があると認めるときは、受注者は、あらかじめ監督員の意見を聴かなければならない。ただし、緊急やむを得ない事情があるときは、この限りではない。

- 2 前項の場合においては、受注者は、そのとった措置の内容を監督員に直ちに通知しなければならない。
- 3 監督員は、災害防止その他工事の施工上特に必要があると認めるときは、受注者に対して臨機の措置をとることを請求することができる。この場合においては、受注者は、直ちにこれに応じなければならない。
- 4 受注者が第1項又は前項の規定により臨機の措置をとった場合において、当該措置に要した費用のうち、受注者が請負代金額の範囲内において負担することが適当でないと認められる部分については、発注者が負担する。

(2) 土木工事共通仕様書、農林土木工事共通仕様書（抜粋）

第1編共通編（土木）

第1章総則 第1節総則

1-1-3 設計図書の照査等

1. 受注者からの要求があり、監督員が必要と認めた場合、受注者に図面の原図を貸与することができる。ただし、共通仕様書等市販・公開されているものについては、受注者が備えなければならない。
2. 受注者は、施工前及び施工途中において、自らの負担により契約書第18条第1項第1号から第5号に係る設計図書の照査を行い、該当する事実がある場合は、監督員にその事実が確認できる資料を書面により提出し、確認を求めなければならない。なお、確認できる資料とは、現地地形図、設計図との対比図、取合い図、施工図等を含むものとする。また、受注者は、監督員から更に詳細な説明または資料の追加の要求があった場合は従わなければならない。
ただし、設計図書の照査範囲を超える資料の作成については、契約書第19条によるものとし、監督員からの指示によるものとする。
3. 受注者は、契約の目的のために必要とする以外は、契約図書及びその他の図書を監督員の承諾なくして第三者に使用させ、または伝達してはならない。

第3編土木工事共通編（土木）

第1章総則 第1節総則

1-1-8 数量の算出及び完成図

1. 受注者は、出来形数量を算出するために出来形測量を実施しなければならない。
2. 受注者は、出来形測量の結果を基に、土木工事数量算出要領（案）及び設計図書に従って、出来形数量を算出し、その結果を監督員からの請求があった場合は速やかに提示するとともに、工事完成時まで監督員に提出しなければならない。出来形測量の結果が、設計図書の寸法に対し、土木工事施工管理基準及び規格値を満たしていれば、出来形数量は設計数量とする。
なお、設計数量とは、設計図書に示された数量及びそれを基に算出された数量をいう。

第1編共通編（農林土木）

第1章総則 第1節総則

1-1-23 数量の算出

1. 受注者は、出来形数量を算出するために出来形測量を実施しなければならない。
2. 受注者は、出来形測量の結果を基に、土地改良工事数量算出要領（案）、森林整備保全事業設計積算要領及び設計図書に従って、出来形数量を算出し、その結果を監督員からの請求があった場合は速やかに提示するとともに、工事完成時まで監督員に提出しなければならない。
出来形測量の結果が、設計図書の寸法に対し、農林土木工事施工管理基準及び規格値を満足していれば、出来形数量は設計寸法で行うものとする。
なお、設計数量とは、設計図書に示された数量及びそれを基に算出された数量をいう。

第3編土木工事共通編（土木）

第2章 一般施工

第2節 適用すべき諸基準

受注者は、設計図書において特に定めのない事項については、以下の基準類による。これにより難い場合は、監督員の承諾をえなければならない。なお、基準類と設計図書に相違がある場合は、原則として設計図書の規定に従うものとし、疑義がある場合は監督員と協議しなければならない。※以下基準省略

第3編土木工事共通編（農林土木）

第1章 一般施工

第2節 適用すべき諸基準

受注者は、設計図書において特に定めのない事項については、以下の基準類による。なお、基準類と設計図書に相違がある場合は、原則として設計図書の規定に従うものとし、疑義がある場合は監督員と協議しなければならない。※以下基準省略

（3） 土木工事標準積算基準書 共通仮設費（抜粋）

準備費の積算

準備費として積算する内容で共通仮設費率に含まれる部分

- 1) 準備及び後片付けに要する費用
 - イ 着手時の準備費用
 - ロ 施工期間中における準備、後片付け費用
 - ハ 完成時の後片付け費用
- 2) 調査・測量、丁張等に要する費用
 - イ 工事着手前の基準測量等の費用
 - ロ 縦、横断面図の照査等の費用
 - ハ 用地幅杭等の仮移設等の費用
 - ニ 丁張の設置等の費用

技術管理費の積算

技術管理費として積算する内容で共通仮設費率に含まれる部分

- 1) 品質管理のための試験等に要する費用
- 2) 出来形管理のための測量等に要する費用
 - ・出来形管理のための測量、図面作成、写真管理に要する費用
- 3) 工程管理のための資料の作成等に要する費用

(4) 設計変更事例 (※引用文献:「公共土木工事 設計変更事例集」山海堂)

1) - 1 工事目的物の形状・寸法や仕様の変更

変更事例

当初想定していた支持地盤が試験杭の施工やボーリング調査結果から強度不足が判明したので、基礎工の構造を変更した。

設計での仕様・施工条件



Point

岩盤線推定のためのボーリングは、ジャストポイントで行われているとは限らないので、試験杭で確認することは有効。

1) - 2 工事目的物の追加

変更事例

土質条件が現場と設計で一致せず、薬液注入率を変更した。

設計での仕様・施工条件



Point

薬液注入量、薬液注入率等については、特記仕様書又は図面等で明確に条件明示する。

2) 工事目的物の追加

変更事例

埋設管が工事の支障となるため、既設管を一部撤去し、埋設管の切り回し工事を追加した。

設計での仕様・施工条件



Point

工事に影響する可能性が大きいため、特記仕様書又は図面には「存在」を記しておき、設計変更の対象とする可能性を示唆しておき、施工過程での調査内容については速やかに監督員に通知し、その確認を請求すること。(約款第18条)

3) - 1 施工方法等の変更

変更事例

現道切り回し作業を夜間とすることを警察協議により条件に付された。これにより、昼間とは別に、夜間作業に伴う交通整理人の配置が必要となった。

設計での仕様・施工条件



Point

当初の特記仕様書では、作業が昼間を前提としており交通誘導警備員の配置も昼間のみであった。しかし、警察協議により夜間作業に条件変更となったため、設計変更の対象とする。

3) - 2 施工方法等の変更

変更事例

当初設計では、掘削に当たり水替えポンプを想定していたが、予想以上に湧水が多く、ウェルポイント工法を追加した。

設計での仕様・施工条件

当初設計

・当初設計書には水替えポンプの規模と数量が示されていた「 ϕ 〇〇×台数を想定しているが、これにより難しい場合は監督員と協議」と示されていた。

・予想以上に湧水が多く、ウェルポイント工法を追加した。



変更設計

・ウェルポイントの追加に伴って、水替工のポンプ台数を減じて積算
・ウェルポイントの工法の費用を計上

Point

一般に工事の施工条件は、常識的な範囲であっても、具体的な数値等を設計図書に明示しておくことが望ましい。

3) - 3 施工方法等の変更

変更事例

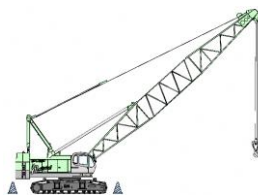
振動発生への懸念があるとの地元要望により、発注者に工法変更の申し入れがあり、工法を変更した。

設計での仕様・施工条件

当初設計

・仮締切の施工については、「打込みを高周波バイブロハンマ、引き抜きを電動式バイブロハンマ方式により施工方法を指定している。また、現地の状況により難しい場合は監督員と協議する」と示されていた。

・地元要望により、振動発生への懸念があるとして発注者に工法変更の申し入れがあった。



変更設計

・受注者と協議の上、鋼矢板の打込み、引抜き工法を変更
・特記仕様書に工法変更を明示

Point

契約時点では、最も合理的な工法として指定したものであるが、地元から要望が寄せられた時点で、発注者は苦情内容を調査し「周辺住民に振動による悪影響を及ぼさない施工方法を採用する」との施工の制約を変更特記仕様書等に示し、設計変更の対象とする必要がある。

3) - 4 施工方法等の変更

変更事例

工事用道路の振動抑制対策に関する地元要望により、調査の結果、砕石による補修以外の対応が必要と認められるため、敷鉄板の敷設を追加した。

設計での仕様・施工条件



Point

施工手段や仮設は本来任意であるが、重要な仮設物や地元から施工上の条件とされている場合の仮設等については、指定仮設として設計図書に示すこととなる。この場合、地元要望に基づき、施工条件の変更であるため、設計変更の対象とする。

4) 工期の変更

変更事例

予期できない河川の増水により護岸基礎の施工が行えず、その後の法覆工施工の所要日数等から工期内の完了が困難となったため、工期延長した。

設計での仕様・施工条件



Point

河川の増水が予期できないものか否かの判断がポイント。例年とは異なる水位の状況であり、施工できない水位であることをデータにより示さなければならない。

菊川市総務部総務課契約検査係